

## 1. 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4072300397		
法人名	医療法人 正慈会		
事業所名	グループホームゆらり館		
所在地	福岡県八女市納楚446-1 (電話) 0943-23-5173		
自己評価作成日	令和 5 年 11 月 15 日	評価結果確定日	令和 6 年 1 月 12 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

入居者様お一人お一人が安心して自分に合った生活ができるように、家庭的な雰囲気作りに努め、入居者様の思いが聞き取れる環境を整えている。また、ご家族様と密に連絡を取り、入居者様の趣味や嗜好を生活に反映できるようにしている。当施設は医院が隣接しているため、医師や看護師・PT等のリハビリスタッフもおり、医療面のバックアップもあるため、終末期まで過ごされる方も多くおられる。また、体調や身体面で異変があった際はすぐに相談し、アドバイス等を傾聴し、安心して生活できるように連携をとっている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会
所在地	福岡県春日市原町3-1-7
訪問調査日	令和 5 年 11 月 30 日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は木造平屋作りで2ユニット、各ユニットの玄関の上にはステンドグラスがはめられており、華やかながら落ち着いた外観の施設である。周辺は国道や県道があり、近くにはスーパーや大型店舗もあるが、少し入ったところにあるため静かな環境にある。敷地内に母体法人の医療機関があり、医療面での連携が充実している。夜間や日々の健康管理、緊急時、重度化・看取り対応時に不安なく過ごせる環境となっている。利用者の尊厳を守りながら、その人らしい生活ができるように、一人ひとりに合わせた対応をしながら、管理者や職員は理念に沿った支援を行っている。

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1. 自分らしい生活 2. 利用者様の尊厳を保った生活支援 3. 家庭的な雰囲気ですぐに生活 4. 地域に密着し開かれたホームを掲げ、ご本人様の医師に沿うように環境を作り、職員の技術向上に努めている。	朝礼や申し送り時に理念について話をする機会がある。馴れ合いにならないように、利用者が今までの生活を継続できるよう理念を実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ等の感染症に気を付けつつ、定期的に移動図書館やヘアカットの訪問を行い、施設外の方との交流を行っている。	コロナ禍前は地域の行事へ参加したり、事業所の行事の声かけを行っていた。近年は感染対策で控えていたが、今後は感染状況をみながら、地域の行事に利用者に参加することを検討している。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近年はコロナウイルスの流行で、交流を行う事が難しかったが、運営推進会議や施設見学等で来館された方々と現状の介護状況等を交えて話を行っている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の頻度で会議を開催し、市の職員や、民生委員、御家族等から意見をいただき、意見の集約を行う。それらを他のスタッフにも確認できる様、議事録にして共有してもらっている。	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催している。利用者の状況やサービス内容、行事、外部評価の報告、身体拘束廃止に関する指針の説明等を行っている。前回、市町村担当者から運営推進会議の内容や流れについて助言をもらい、意見を運営に活かすようにしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入居者様の困難な問題や介護等で分からないことなどを介護長寿課の担当の方に電話または窓口にて相談を行っている。	事業所だよりを行政へ渡したり、運営について相談や報告を電話やメールで行い、日頃から協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	介護を行う職員はもちろん、関係者全員が施設内の勉強会に積極的に参加し、法令の正しい理解に努めている。	玄関・居室・庭へのドアは施錠していない。身体拘束等適正化検討委員会があり、3ヶ月に1回開催している。職員は内部研修を受け、参加できない職員は資料を確認し、知識を深めている。2回骨折をした利用者があり、家族の同意を得て、やむを得ず車いすベルトを使用する時間帯がある。	車いすベルトの使用については、職員の見守り環境や支援方法の見直しを常に行い、早期の改善を期待する。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	施設での勉強会で法令の正しい理解に努め、職員が一人で問題を抱え込まないように相談しやすい環境作りに努めている。ご家族様については管理者や職員が、職員については管理者等が行っている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の正しい理解と制度の活用については、施設内の勉強会等で理解を深め、相談があった際に対応できるように、資料を準備している。	権利擁護に関する説明は契約時に行い、必要と思われた時は再度説明を行っている。職員は内部研修を受けて、権利擁護に関する制度について学ぶ機会があり、相談があった時には窓口に掲げるよう理解を深め、資料等の準備もしている。	
9	—	○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する疑問や不安については入所前の説明や入所後でもご家族様と会話した際に十分に説明を行っている。生活状況についても、情報共有を行い説明し、理解を得るように取り組んでいる。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員からご家族様に積極的に声掛け、世間話等をする事で、話しやすい環境作りに努めている。ご家族様から寄せられた意見や要望は申し送り等で共有し、反映するようにしている。	利用者は日常的に希望等を職員へ伝える機会がある。コーヒーや甘味を食べたいとの意向があった時は、家族にも相談しながら提供している。家族が来られた時は、気になっていることや希望を尋ねるようにしている。家族から手作りの物を食べてもらいたいと相談があった時も対応している。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回以上、スタッフミーティングを行い、意見交換の場を設けている。また、普段より管理者から職員に対して声掛けすることで、話しやすい環境を作るようにしている。	朝礼や申し送り時に、職員は運営に関する相談をしている。主任は職員の様子を見ながら声をかけ、コミュニケーションをとるように心がけている。利用者が安全に入浴できるように用具を購入したり、おむつの検討をする等、職員の意見や提案を運営に反映させている。	
12	—	○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員それぞれの段階に応じて育成するために、各種勉強会等を受ける機会を確保し、働きながら向上できるような環境を作っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	労働基準法及び個人情報等の法令を遵守し、誰もが安心して働くことができる環境整備に努めている。また、資格取得できるように配慮している。	採用に関しては、性別や年齢等で採用対象から排除することはない。定年はあるが、65歳まで正規職員で働くこともでき、その後もパートとして就労することも可能である。資格取得の希望がある職員にシフト調整等を行い、配慮している。管理者も常に職員の頑張りに気づいており、感謝の念をもって接している。職員が安心して働ける環境づくりに取り組んでいる。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	施設内の勉強会で情報を共有し、人権についての正しい理解と啓発に努めている。	利用者の人権を尊重するために内部研修を行い学んでいる。認知症、身体拘束防止、高齢者虐待防止の研修時にも、人権の尊重を含めた研修となっている。職員に対する人権教育や啓発活動に取り組んでいる。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種資格取得の情報を提供し、勉強できる環境作りに努めている。研修内容は職員内で共有できるように伝達を行っている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近年はコロナウイルスの流行により、外部の勉強会等は控えていたが、今年より八女市や福祉協議会等が開催している勉強会にも参加を行い、同業の方との情報交換等での質の向上が出来るように努めている。		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設見学をしていただき、どう過ごされているか雰囲気を感じ取ってもらい、何か不安な点はないか確認し、説明を行い、不安解消に努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者や職員は、個人情報の法令の説明を行い、お一人お一人の家族状況に合わせ、安心して相談できるような環境作りに取り組んでいる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援  サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まで必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様及びご家族様の意向を傾聴し、考えられる他の介護サービスの情報の提供を行い、支援に努めている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者様お一人お一人の生活歴や興味がある事を把握し、それらを一緒に行うことで共通の話題や楽しみができ、良い関係の構築に努めている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様が主体的に関わることができるように、健康状態の変化時だけでなく、日常生活の状態を個別に月間予定表に掲載し、情報の提供を行っている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様の状態に合わせ、手紙や電話等のやり取りをされているため、職員が仲役となりサポートしている。	利用者の馴染みの場や人について話を聞き、把握するように努めている。ドライブの時に利用者の住んでいた地域を回ったり、知人や利用者の元教え子が面会に来たり、利用者が手紙を書くことを支援する等、関係が途切れないよう支援に努めている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が入居者様の生活歴や趣味等の情報を把握し、入居者様同士の関係作りが円滑にいくように支援を行っている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者様及びご家族様の状況に合わせ、希望があれば、入居時の生活や心身の状況等の情報提供ができる体制を整えている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
25	12	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常生活において、入浴やリハビリ送迎等、個別介助の際に入居者様に寄り添い、思いを傾聴している。情報は職員で共有し、実現できるように支援している。	職員は利用者をより深く知るため、積極的に接する機会をもつよう努めている。意思表示が難しい利用者については、家族や入所前の関係者から聴き取っている。聴き取りした情報は、申し送りノートに記入して職員間で情報共有している。	
26	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様が来所の際、生活環境や交友関係等、多角的に情報を収集し、把握に努めている。また、前任のソーシャルワーカーやケアマネジャーとの連絡を密にし、状況の把握に努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員が入居者様と生活を共にしながら把握した生活状況や心身の変化を個別に記録し、申し送り等で伝達し、情報の共有を図っている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	設定した期間を待たず、ご本人様の状態や意向の変化、ご家族様の意向の変化、または職員が現場で収集したご本人様の変化や希望に応じ見直し、柔軟な対応を行っている。	担当制にしており、担当者からの毎月のモニタリング、全職員からの情報や意見、医療情報、家族の意見等をケアマネジャーが取りまとめ、担当者会議で話し合い、ケアプランを作成している。	
29	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員が入居者様と生活を共にしながら、日常の暮らしの様子やご本人様の言動等、気づきを記録し共有している。収集した情報は継続的に把握し、柔軟な対応をしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な入院の付き添い等、ご家族様の対応が困難な場合、施設で出来ることを個別の事案に応じて、柔軟に対応している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設周辺の環境について、職員全員が把握するように努めている。また、環境の情報については、行政や周辺住民より情報を収集し、生活の質の向上に生かせるように努めている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	継続的に医療を受けられるように、入居以前のかかりつけ医への受診、施設協力医への変更を行い対応している。また、専門的な医療機関への受診、通院の送迎等、10何に支援を行っている。	利用者が入所前のかかりつけ医を継続して利用する場合や、施設の協力医をかかりつけ医とする場合でも、利用者の受診が適切に続けられることを第一に、送迎やリフトカーの手配等を行っている。家族が送迎する際には、受診先へ利用者の情報が確実に届き、受診先からの情報が確実に事業所に伝わるよう情報共有に気を付けている。	
33	—	○看護職との協働  介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内の看護職員、併設医院の看護師と普段より連絡を密に行い、情報共有・相談ができる関係を築き、適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療機関へ入院した際は施設での日常生活状況、ADL等の情報交換・相談に努め、安心して治療を受け退院されるように支援を行っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者様の状態、またはご本人様及びご家族様の意向に柔軟に応じる体制を整備している。また、意向の確認の時期は入居時に看取りについて、意向を伺い、同意書をお交わしている。	入所時に「重度化対応に関する指針」により、家族に説明するとともに、看取りに入った際の過ごし方について利用者や家族の意向を確認している。看取りの際は医師を交えての話し合いを重ね、家族の意向に添いながら支援している。	
36	—	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員が対応できるように定期的に勉強会や実習を実施している。また、入居者様の状態や変化に応じ、併設医院の看護師による指導・研修を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員の人数が少ない夜間を中心に、火事についての避難訓練を年2回実施している。訓練時には、消防職員より指導・評価をもらっている。非常食や飲料水などの備蓄も行っている。	ハザードマップでは水害危険区域から外れているため、主に火災を想定した避難訓練を行っている。年2回のうち1回は夜間を想定した訓練を行っている。母体法人の医療機関等が隣接しており、発災時には協力する仕組みを構築している。非常用備品は事業所内に準備している。	
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員全員が入居者様やご家族様の視点に立ち、適切な呼び方を行っている。また、人前であからさまな介護をし、本人を傷つけないよう尊重し、さりげない介護に努めている。	プライバシーの保護について勉強会を行っている。介護の現場では利用者との間の節度が守られにくいことを学び、日頃の対応に気を付けている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は日常生活の中で、入浴やリハビリ送迎等、個別になる機会にコミュニケーションをとり、入居者様の希望・関心・嗜好など思いを主張できるように支援を行っている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人様及びご家族様や職員が気付いた習慣や日課を施設の1日の流れの中に柔軟に取り入れ、入居者様それぞれの生活リズムを支援している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様の希望やご家族様より聴取した在宅での生活背景から、好きな服や小物を服装に取り入れたりなど、その方らしい選択が出来るように支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在は食事を併設している病院厨房より提供してもらっている。受け取った食事の配膳準備や、食後の片付け等を手伝ってもらう際に支援を行っている。	利用者はお茶をついだり、トレーを拭く等、職員と一緒に食事の準備や片づけをしている。食堂のテーブルや椅子の配置は、利用者の日頃の様子に応じて、楽しい食事になるように配慮している。一人ひとりの嗜好を把握し、好みに応じて量を加減している。	



項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスは病院栄養士の監修の下、献立を立ててもらっている。また、時期や季節に沿ったメニューを考えてもらっている。お一人お一人の摂取状況に応じて食事形態についても考慮している。		
44	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者様それぞれの習慣や、できること、できなくなったことを把握し、個別に働きかけている。また、口腔内の状態、ご本人様またはご家族様の希望に応じ、歯科往診依頼を行っている。		
45	19	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各入居者様の排泄パターンを把握し、声掛けを行っている。時間帯による量の違い等の個々の状態や、外出時や夜間等その場面に応じ、介護用品の使い分けを行い、支援している。	排泄の支援は個別に間隔を見て案内したり、固有のサインを見て案内している。トイレのドアは引き戸になっており、照明や換気扇はセンサー式となっている。トイレの場所の理解が難しい利用者には、ドアに貼り紙をして場所が分かりやすいよう配慮している。ポータブルトイレは利用者の状態に応じて夜間のみ、終日と区別し、一人ひとりに合わせた支援を行っている。	
46	—	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居者様それぞれの暮らしの中で、食事・排泄・活動状況等を見通し、水分補給の促しや腹部マッサージなど、自然排便を促す工夫は行っている。自然排便が厳しい場合は、下剤の使用や、看護師より摘便の施行を行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	各ユニットにて週3回の入浴日を基本とし、入浴を拒否される入居者様についてはご本人様の意向やご家族様に家出の生活状況を伺い、時間や方法を検討し、個別の対応を行っている。	ユニットで入浴日が異なっているので、自ユニットで入浴しなかった際には、他ユニットでも入浴することができる。日曜日でも希望があれば入浴することができる。湯温等は好みに応じて個別に調整している。冬期は洗い場の床を温めてから案内している。柚湯や入浴剤を使用し、入浴を楽しめるよう配慮している。	
48	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れない入居者様については、生活リズムが再構築できるように支援を行っている。場合によって、併設医院の医師や他医療機関受診にて相談し、睡眠や薬剤の服用等について調整を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は入居者様それぞれの薬の目的を周知し、適切に服薬できるよう支援している。また、変更・追記があった場合、申し送り簿に記載し、周知徹底を行っている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各入居者様の生活背景や心身の状況をもとに、誕生日会でのお祝いやゲームなど、得意なこと・できることを表現できる機会を設け、その方らしさが発揮できるように支援を行っている。		
51	21	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルスの流行により外出や外食を行う事はなかなかできていなかったが、ドライブ等人と接触しない方法での支援を行ったりしていた。最近はお家族様との外出や外泊の機会も再び設け始めている。	敷地内の花を見ながら散歩をしたり、隣接する医療機関の受診の際に遠回りして帰ってきたりしている。家族が送迎する外出については再開している。感染対策をしながら、毎月ドライブを行っている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様及びご家族様と話しながら、ご本人様の力量に応じて、お金に触れ、使える機会を支援している。また、預かり金を行い、希望があれば職員が買い物へ行き、お金の管理を行っている。		
53	—	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けられなくても会話することができる方等、各入居者様の状態に合わせて、電話や手紙等の支援を行っている。また、個人情報に関することであるため、プライバシーに配慮している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各ユニットの玄関や廊下・リビングには、入居者様の作品や季節の花々を飾り、生活感や季節感を感じられるように工夫している。また、各入居者様の状態に合わせ席の配置を検討し、共有空間でも居心地よく過ごせるように支援している。	廊下には手すりが取り付けられており、所々に飾り窓があり、季節の花や小物が置かれていて温かい雰囲気を醸し出している。食堂は天井が高く、利用者が日頃くつろいで過ごすリビングと併せて、広くゆったりと過ごせる空間となっている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングという共有空間でテーブルと椅子があり、ローテーブルとソファ、畳と座卓のスペースがあり、同じ空間でその時の気分に合わせて過ごすことができる。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様に思い出のある品を持参していただくよう説明を行い、居室の空間を慣れ親しんだ空間にすることで、ご本人様が居心地よく生活できるように支援を行っている。	ドアは引き戸で、洗面台はシンク両脇の空間が広いので、洗面用具や化粧品等を置くことができる。洗面台の下は空間となっており、車いす利用者が使用しやすくなっている。利用者は思い出のある品を持ち込むことができ、居心地良く過ごせるよう配慮されている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様それぞれの身体状況を把握し、転倒リスクやヒヤリハットを検討し、環境整備を行い、入居者様が出来ることを発揮できる空間作りに努めている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2/3くらいと		
				③家族の1/3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2/3くらいが		
				③職員の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2/3くらいが		
				③家族等の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1. 自分らしい生活 2. 利用者様の尊厳を保った生活支援 3. 家庭的な雰囲気であらいた生活を 4. 地域に密着し開かれたホームをと掲げ、ご本人様の医師に沿うように環境を作り、職員の技術向上に努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ等の感染症に気を付けつつ、定期的に移動図書館やヘアカットの訪問を行い、施設外の方との交流を行っている。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近年はコロナウイルスの流行で、交流を行う事が難しかったが、運営推進会議や施設見学等で来館された方々と現状の介護状況等を交えて話を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の頻度で会議を開催し、市の職員や、民生委員、御家族等から意見をいただき、意見の集約を行う。それらを他のスタッフにも確認できる様、議事録にして共有してもらっている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入居者様の困難な問題や介護等で分からないことなどを介護長寿課の担当の方に電話または窓口にて相談を行っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	介護を行う職員はもちろん、関係者全員が施設内の勉強会に積極的に参加し、法令の正しい理解に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	施設での勉強会で法令の正しい理解に努め、職員が一人で問題を抱え込まないように相談しやすい環境作りに努めている。ご家族様については管理者や職員が、職員については管理者等が行っている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の正しい理解と制度の活用については、施設内の勉強会等で理解を深め、相談があった際に対応できるように、資料を準備している。		
9	—	○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する疑問や不安については入所前の説明や入所後でもご家族様と会話した際に十分に説明を行っている。生活状況についても、情報共有を行い説明し、理解を得るように取り組んでいる。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員からご家族様に積極的に声掛け、世間話等をする事で、話しやすい環境作りに努めている。ご家族様から寄せられた意見や要望は申し送り等で共有し、反映するようにしている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回以上、スタッフミーティングを行い、意見交換の場を設けている。また、普段より管理者から職員に対して声掛けすることで、話しやすい環境を作るようにしている。		
12	—	○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員それぞれの段階に応じて育成するために、各種勉強会等を受ける機会を確保し、働きながら向上できるような環境を作っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	労働基準法及び個人情報等の法令を遵守し、誰もが安心して働くことができる環境整備に努めている。また、資格取得できるように配慮している。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	施設内の勉強会で情報を共有し、人権についての正しい理解と啓発に努めている。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種資格取得の情報を提供し、勉強できる環境作りに努めている。研修内容は職員内で共有できるように伝達を行っている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近年はコロナウイルスの流行により、外部の勉強会等は控えていたが、今年より八女市や福祉協議会等が開催している勉強会にも参加を行い、同業の方との情報交換等で質の向上が出来るように努めている。		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設見学をしていただき、どう過ごされているか雰囲気を感じ取ってもらい、何か不安な点はないか確認し、説明を行い、不安解消に努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者や職員は、個人情報の法令の説明を行い、お一人お一人の家族状況に合わせ、安心して相談できるような環境作りに取り組んでいる。		



項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援  サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まで必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様及びご家族様の意向を傾聴し、考えられる他の介護サービスの情報の提供を行い、支援に努めている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者様お一人お一人の生活歴や興味がある事を把握し、それらと一緒にいることで共通の話題や楽しみができ、良い関係の構築に努めている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様が主体的に関わることができるように、健康状態の変化時だけでなく、日常生活の状態を個別に月間予定表に掲載し、情報の提供を行っている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様の状態に合わせ、手紙や電話等のやり取りをされているため、職員が仲役となりサポートしている。		
23	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が入居者様の生活歴や趣味等の情報を把握し、入居者様同士の関係作りが円滑にいくように支援を行っている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者様及びご家族様の状況に合わせ、希望があれば、入居時の生活や心身の状況等の情報提供ができる体制を整えている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
25	12	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常生活において、入浴やリハビリ送迎等、個別介助の際に入居者様に寄り添い、思いを傾聴している。情報は職員で共有し、実現できるように支援している。		
26	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様が来所の際、生活環境や交友関係等、多角的に情報を収集し、把握に努めている。また、前任のソーシャルワーカーやケアマネージャーとの連絡を密にし、状況の把握に努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員が入居者様と生活を共にしながら把握した生活状況や心身の変化を個別に記録し、申し送り等で伝達し、情報の共有を図っている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	設定した期間を待たず、ご本人様の状態や意向の変化、ご家族様の意向の変化、または職員が現場で収集したご本人様の変化や希望に応じ見直し、柔軟な対応を行っている。		
29	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員が入居者様と生活を共にしながら、日常の暮らしの様子やご本人様の言動等、気づきを記録し共有している。収集した情報は継続的に把握し、柔軟な対応をしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な入院の付き添い等、ご家族様の対応が困難な場合、施設で出来ることを個別の事案に応じて、柔軟に対応している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設周辺の環境について、職員全員が把握するように努めている。また、環境の情報については、行政や周辺住民より情報を収集し、生活の質の向上に生かせるように努めている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	継続的に医療を受けられるように、入居以前のかかりつけ医への受診、施設協力医への変更を行い対応している。また、専門的な医療機関への受診、通院の送迎等、10何に支援を行っている。		
33	—	○看護職との協働  介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内の看護職員、併設医院の看護師と普段より連絡を密に行い、情報共有・相談ができる関係を築き、適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療機関へ入院した際は施設での日常生活状況、ADL等の情報交換・相談に努め、安心して治療を受け退院されるように支援を行っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者様の状態、またはご本人様及びご家族様の意向に柔軟に応じる体制を整備している。また、意向の確認の時期は入居時に看取りについて、意向を伺い、同意書をお互いに行っている。		
36	—	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当てや初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員が対応できるように定期的に勉強会や実習を実施している。また、入居者様の状態や変化に応じ、併設医院の看護師による指導・研修を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員の人数が少ない夜間を中心に、火事についての避難訓練を年2回実施している。訓練時には、消防職員より指導・評価をもらっている。非常食や飲料水などの備蓄も行っている。		
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員全員が入居者様やご家族様の視点に立ち、適切な呼び方を行っている。また、人前であからさまな介護をし、本人を傷つけないよう尊重し、さりげない介護に努めている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は日常生活の中で、入浴やリハビリ送迎等、個別になる機会にコミュニケーションをとり、入居者様の希望・関心・嗜好など思いを主張できるように支援を行っている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人様及びご家族様や職員が気付いた習慣や日課を施設の1日の流れの中に柔軟に取り入れ、入居者様それぞれの生活リズムを支援している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様の希望やご家族様より聴取した在宅での生活背景から、好きな服や小物を服装に取り入れたりなど、その方らしい選択が出来るように支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在は食事を併設している病院厨房より提供してもらっている。受け取った食事の配膳準備や、食後の片付け等を手伝ってもらう際に支援を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスは病院栄養士の監修の下、献立を立ててもらっている。また、時期や季節に沿ったメニューを考えてもらっている。お一人お一人の摂取状況に応じて食事形態についても考慮している。		
44	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者様それぞれの習慣や、できること、できなくなったことを把握し、個別に働きかけている。また、口腔内の状態、ご本人様またはご家族様の希望に応じ、歯科往診依頼を行っている。		
45	19	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各入居者様の排泄パターンを把握し、声掛けを行っている。時間帯による量の違い等の個々の状態や、外出時や夜間等その場面に応じ、介護用品の使い分けを行い、支援している。		
46	—	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居者様それぞれの暮らしの中で、食事・排泄・活動状況等を見通し、水分補給の促しや腹部マッサージなど、自然排便を促す工夫は行っている。自然排便が厳しい場合は、下剤の使用や、看護師より摘便の施行を行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	各ユニットにて週3回の入浴日を基本とし、入浴を拒否される入居者様についてはご本人様の意向やご家族様に家出の生活状況を伺い、時間や方法を検討し、個別の対応を行っている。		
48	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れない入居者様については、生活リズムが再構築できるように支援を行っている。場合によって、併設病院の医師や他医療機関受診にて相談し、睡眠や薬剤の服用等について調整を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は入居者様それぞれの薬の目的を周知し、適切に服薬できるよう支援している。また、変更・追記があった場合、申し送り簿に記載し、周知徹底を行っている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各入居者様の生活背景や心身の状況をもとに、誕生日会でのお祝いやゲームなど、得意なこと・できることを表現できる機会を設け、その方らしさが発揮できるように支援を行っている。		
51	21	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルスの流行により外出や外食を行う事はなかなかできていなかったが、ドライブ等人と接触しない方法での支援を行ったりしていた。最近はお子様との外出や外泊の機会も再び設け始めている。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様及びご家族様と話しながら、ご本人様の力量に応じて、お金に触れ、使える機会を支援している。また、預かり金を行い、希望があれば職員が買い物へ行き、お金の管理を行っている。		
53	—	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けられなくても会話することができる方等、各入居者様の状態に合わせて、電話や手紙等の支援を行っている。また、個人情報に関することであるため、プライバシーに配慮している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各ユニットの玄関や廊下・リビングには、入居者様の作品や季節の花々を飾り、生活感や季節感を感じられるように工夫している。また、各入居者様の状態に合わせて席の配置を検討し、共有空間でも居心地よく過ごせるように支援している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングという共有空間でテーブルと椅子があり、ローテーブルとソファ、畳と座卓のスペースがあり、同じ空間でその時の気分に合わせて過ごすことができる。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様に思い出のある品を持参していただくよう説明を行い、居室の空間を慣れ親しんだ空間にすることで、ご本人様が居心地よく生活できるように支援を行っている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様それぞれの身体状況を把握し、転倒リスクやヒヤリハットを検討し、環境整備を行い、入居者様が出来ることを発揮できる空間作りに努めている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない



項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）			
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2／3くらいと		
				③家族の1／3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）	○	①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）	○	①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 （参考項目：11, 12）	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2／3くらいが		
				③職員の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2／3くらいが		
				③利用者の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2／3くらいが		
				③家族等の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		